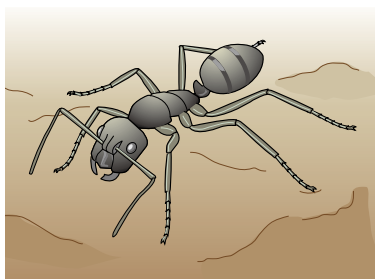


アリ



アリのなかまは、公園や道ばたなどいろいろな場所で見られる、とても身近な昆虫です。

日本にいるアリの多くは、(1)に(2)を作っ(3)で生活します。各自の役割分担がしっかりと決まっています。



+プラスワン

アリの多くは雑食で、ほかの昆虫の体液や花のみつなどいろいろなものを食べます。

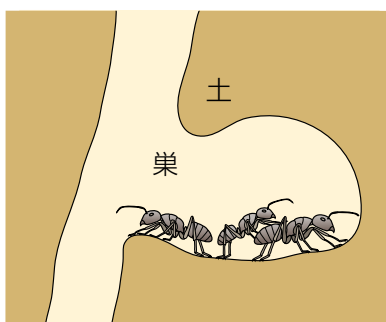
成長のようす

アリは(4)です。巣に1匹だけいる(5)がたくさん(6)の卵を産みます(種類によっては女王アリが数匹いる場合もあります)。卵が(6)すると、幼虫は(7)に世話をされて成長します。やがてさなぎになり(8)しますが、多くの成虫は働きアリとなり、1匹だけが女王アリとなります。

+プラスワン

ふつう、昆虫は子育てをしないため、幼虫の生存率は低くなりますが、アリやハチのなかまは巣を作って集団で暮らし、幼虫の世話をするため、幼虫の生存率は高くなります。

アリは、(9)のすがたで巣の中で(10)します。



からだのつくり

アリの成虫には、(11)の部分にあしが(12)ありますが、多くの成虫にははねがありません。食べ物を運んだり、穴をほったりするために大きな(13)が発達しています。

ナナホシテントウ

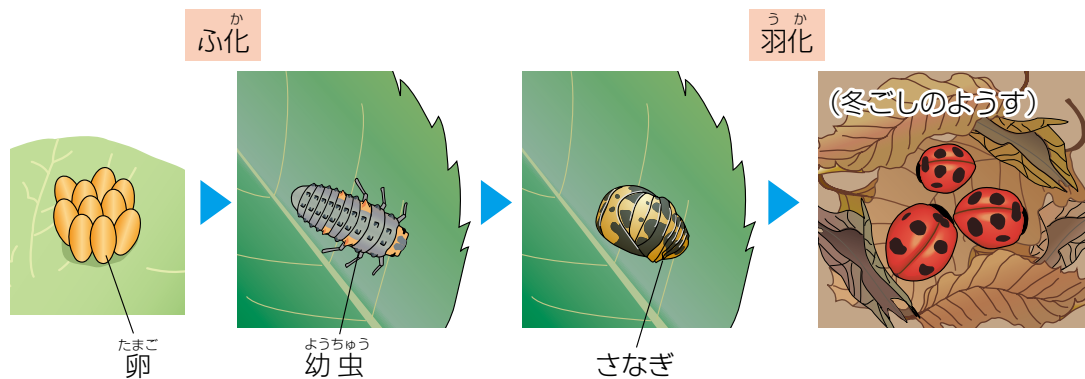


ナナホシテントウは、日本全国に生息するテントウムシです。(14)になると成虫が草むらや畑などで見られます。成虫の赤色のはねには、黒色の7つのはん点があります。



成長のようす

ナナホシテントウなど、テントウムシは(15)です。



ナナホシテントウは、落ち葉や石の下など雨や風の当たらない所で、(16)のすがたで冬ごしします。(17)になると産卵します。ナナホシテントウは春から秋にかけて、(18)のサイクルを何回かくり返します。

食べ物とすみか

ナナホシテントウの幼虫と成虫は(19)を食べるため、アブラムシのつくいろいろな草がある場所にすんでいます。

からだのつくり

ナナホシテントウの幼虫と成虫はほかの昆虫を食べるので、(20)です。成虫は、外から見える(21)のかたいはねの下に、うすいはねが(22)あります(はねを広げて飛ぶときはうすいはねも見えます)。

+プラスワン

ナナホシテントウの幼虫と成虫は、危険を感じると黄色の苦いしるを出します。

カブトムシ

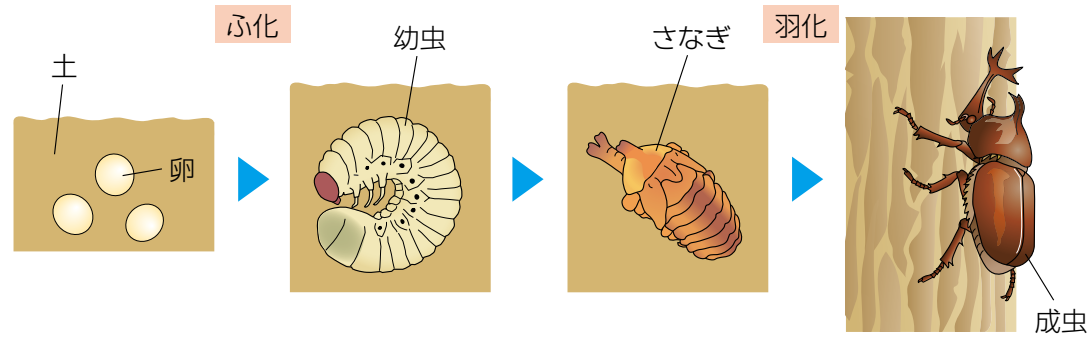


カブトムシは、日本全国の山に生息している昆虫で、コガネムシの一種です。(23)になると成虫が樹木にとまっていたり、電灯のある場所に飛んできたりするのが見られます。カブトムシはおもに(24)に活動します。



成長のようす

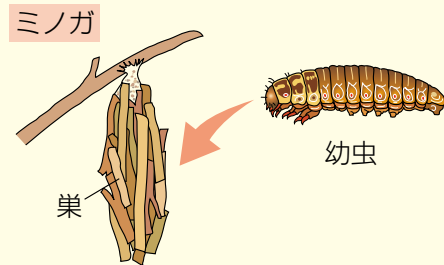
カブトムシは(25)です。卵が(26)すると、幼虫は(27)をくり返して大きくなり、やがてさなぎになります。しばらくすると(28)し、成虫になります。



カブトムシは、(29)で(30)のすがたで冬ごしします。夏の初めにはさなぎになり、やがて(31)して成虫が土から出ます。夏の終わりに成虫は(32)に卵を産み、やがて死にます。

+プラスワン

カブトムシと同じように、ミノガのなかまも幼虫のすがたで冬ごしします。ミノガの幼虫はミノムシともよばれ、木の枝や葉で巣を作り、巣ごと動き回って葉を食べて生活します。



食べ物とすみか

カブトムシの幼虫は(33)にすみ、(34)などを食べます。カブトムシの成虫は樹木の上などにすみ、(35)や(36)を食べます。

からだのつくり

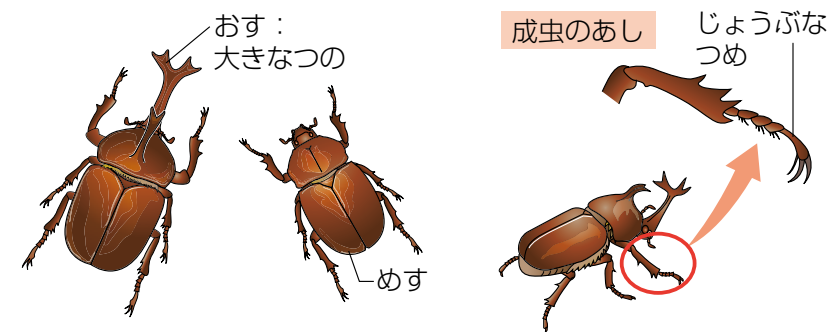
カブトムシの幼虫は、胸から(37)のあしが出ています。くさった葉などを食べるため、(38)です。カブトムシの成虫は、(39)を食べるため、(40)です。

成虫の口



なめる口

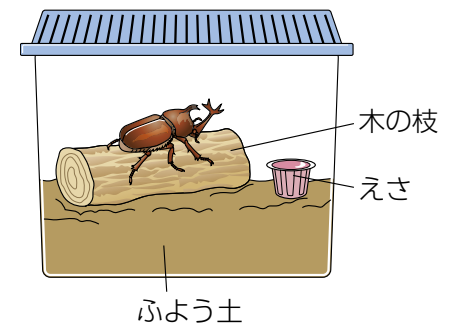
カブトムシの成虫の(41)には、大きな(42)が生えています。めすには大きなつのはありません。外から見える(43)のかたいはねの下に、うすいはねが(44)あります(はねを広げて飛ぶときはうすいはねも見えます)。樹木の幹にしがみついたため、(45)のあしには大きくてじょうぶなつめがついています。



飼育の仕方

空気が通る穴のあいた容器にふよう土や木の枝を入れ、日光が直接当たらない所に置いてカブトムシの成虫を入れます。えさとしてバナナなどの(46)や(47)をあたえます。

土がかわいてきたらきりふきなどで軽く(48)。また、えさはすぐくさるので、こまめにとりかえます。



(注意) 本ドリルでは入試問題を掲載していません。